

たより



平成 29 年 5 月 22 日
伊勢市教育研究所
伊勢市桜木町 55-1 (旧さくらぎ保育所)

「若手教員の学びを支える研修講座」スタート！

今年度新たに、若手教員の皆さんを対象にした4回シリーズの研修講座をスタートしました。第1回講座は4月18日に前教育長 宮崎吉博さんを講師にお迎えして実施しました。「共に生きる～若い教職員の皆さんに伝えたいこと～」をテーマに、ご自身の初任の頃からこれまでの経験を踏まえて熱く語っていただきました。受講者36名の皆さんそれぞれに気付きを得ていただいたようです。



＜宮崎先生のお話より＞

- 「学校の教職員であること」に自信と矜持を持ってほしい。
- どんな時代になっても、堂々と正義や愛、友情や思いやりの大切さを主張できるのが学校である。それをきっちりと子どもたちに教えるのが教職員の役割である。
- 「みんなが気持ちよく安心して通える学校」を目指す。「みんな」とは「一人の例外もなく、一人の漏れもなく」が理想。理想を語り続けられるのが学校という存在である。
- 理想がない教職員は子どもに信頼されない。
- しんどい思いをしている子は宝物である。その子とどう生きていくかを教職員は考えなければならない。
- 「こんな人になりたい」と思わせる大人に子どもたちを出会わせること。そして自らも「こんな人になりたい」と思ってもらえる教職員を目指してほしい。

- 「共に生きる」とは、きわめて清々しい言葉である。しかし、実現するのはとてもしんどいことである。だからこそ、きれいごとで終わらせるのではなく、しんどいことをやり遂げてほしい。
- 特異な例を一般化することが差別や偏見につながる。何か大きな事件が起きるたびに大騒ぎしないようにしたい。大人がぶれないようにしたい。あの子はこんな子だというようなマイナスやネガティブキャンペーンの怖さ、思い込みが広がる怖さを肝に銘じてほしい。学校には背負っているものがあることを意識していかなければならない。



<受講者のアンケートより（抜粋）>

- 「学校とは理想を語る場所である」、口に出して言うには、はずかしいですが、改めて子どもたちと日々向き合っていくために大切なことが再確認できたように思います。学校現場では、“理想”が大切であり、日々を一生けんめい、その日できることをがんばることが大切であると思いました。
- “「うまくいかない」ことの多いのが人生」というのが、とても印象的でした。今年から初めて通常学級の担任になり、毎日「あのときこうすればよかった…」と反省ばかりでしたが、この言葉を聞いて少しホッとした自分がいました。うまくいかないことが多くても、いかに理想に近づけていけるかを考えていきたいと思いました。そして、子どもたちとの出会いを大切に、1日1分1秒を自分にとっても子どもたちにとっても、かけがえのないものにしていきたいです。
- 人生の中でうまくいかないことや思いが通じないことの方が多というお話を聞き、改めて考えるとそうかもしれないと思いました。だからこそ、うまくいったときの喜びやうれしさを大切に、子どもたちとの関わりの中で見逃さないようにしたいと思います。健常者の「受け入れにくさ」と障がい者の「生きにくさ」はつながっていること、どうすれば両者の思いがつながるのかもっと学んでいかなければいけないと思いました。

次回講師 楠木 宏先生の著書紹介

第2回講座は6月12日（月）に楠木 宏先生（前小俣小学校教頭、現有緋小学校教諭）を講師にお迎えし、授業づくりについて話していただきます。



※書籍は書店や出版社のHP等のインターネットで購入可能です

楠木先生は、これまでに2冊の書籍（『指示は1回』『追い込む』指導）（東洋館出版）を執筆出版されています。ともに研究所に寄贈いただきました。前作の『指示は1回』は1年間で第4版まで出版されたということです。最新刊の『追い込む』指導は前作の続編です。下記は楠木先生のコメントです。

「この本の内容は、私が伊勢で長年先輩たちに教えていただいたことばかりです。ですから、伊勢の先輩たちの実践が、全国的にも評価されたということになります。ぜひ、後輩の皆さんにも学んでほしいと思います。」

念願かなう！研究所看板設置♪

昨年の8月に桜木町に仮移転してから10ヶ月がたとうとしています。初めて来所される方の目印になるものがないのを心配していましたが、教育総務課の倉野さん、出口ICTアドバイザーに相談したところ、心をこめて立派な看板を製作していただきました。

教育研究所の新たな宝物となりました。

